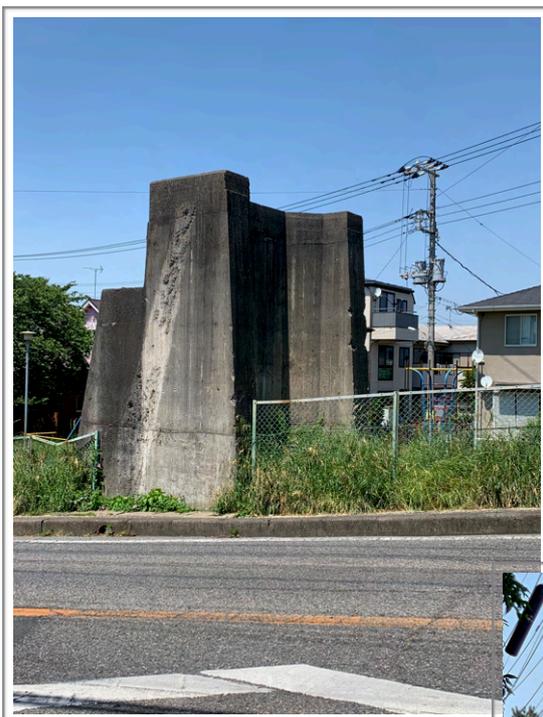


鎌ケ谷 寸景

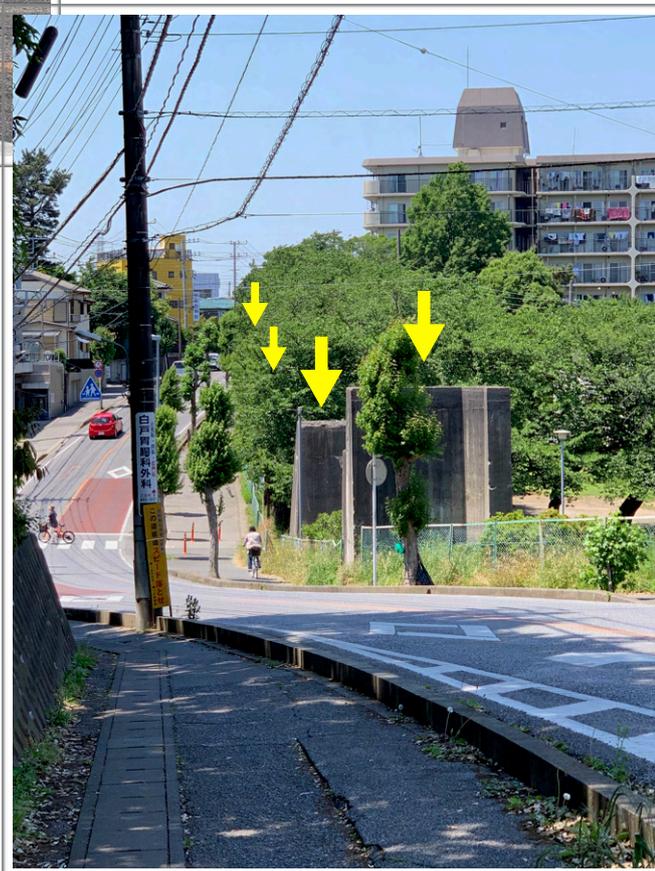
Part 2

青い鳥こどもクリニック 引田 満



先月号（平成31年4月）でご紹介した鎌ケ谷市内に建つ4本の謎の構造物についての続編です。第2北総病院の鈴木文晴先生から寄せられた情報によりますと、これは旧帝国陸軍鉄道連隊の遺構とのことでした。そこで「鎌ケ谷市の史跡」で検索してみるとありました！鉄道の橋脚のようです。次頁に資料を引用してみます。

先にロケーションを説明すると、右の写真のように、かなり急勾配の谷間のあいだに、4本（奥の2本は木に隠れて見えません）のコンクリートの太い柱が縦に1列に並んでいます。



史跡 鉄道連隊橋脚

所在地 鎌ヶ谷市東道野辺6丁目8番

この橋脚は、昭和初期に旧日本軍の鉄道大隊が、訓練や物資等の輸送のため、建設した鉄道の一部です。

近代の戦争では、鉄道は人や物資の輸送のために重要な役割を担っていました。千葉県でも、鉄道大隊から独立した第1鉄道連隊が千葉町（現在の千葉市）に、第2鉄道連隊が津田沼町（現在の新京成新津田沼駅辺り）に配備され、昭和20年（1945年）第2次世界大戦後まで活躍しました。

この橋脚は、第二鉄道連隊が、大戦中、鉄道を敷く訓練として津田沼～松戸間に設けた路線の一部でしたが、終戦後は放置されていたため、この部分を除くほとんどを新京成が買い受けました。その後、昭和21年（1946年）に京成電鉄の出資により、新京成電鉄が設立され、当路線の整備を行いました。しかし、この部分は整備から除かれ、この橋脚だけが残りました。現在の新京成電鉄の前線が、整備を終え開通したのは、昭和30年（1955年）のことでした。

平成11年3月
鎌ヶ谷市教育委員会



歪みが出てちょっと見にくいですが、パノラマ写真を撮ってみました。確かに谷間の傾斜なりに線路を敷くと列車は上り勾配を登ることができそうもありませんから、鉄橋を渡して線路を敷いたということですね。そういえば、新京成が大きく蛇行を繰り返すのは鉄道建設の訓練用だったからという話は以前に聞いたことがありましたが、そこと繋がっていたわけですね。